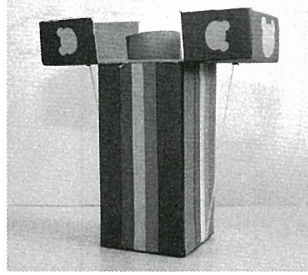




1年
布施 陸さん

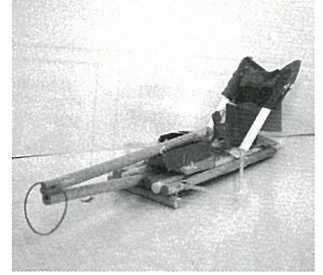


『とびだせ
□ケット』

※トイレットペーパーのしんとごむをつかって、□ケットをつくりました。



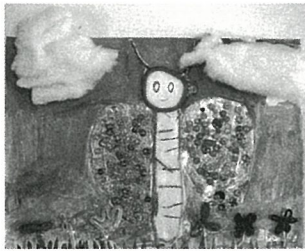
2年
堀越 友輔さん



『岩よげごう』

※発泡スチロールなどを使って船を作りました。折り紙をのせて飾りました。

あつまれ みんなの力作

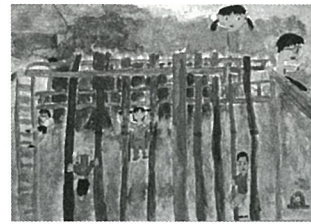


『おしゃれな
チョウチョ』



3年
関川 美沙さん

※ビーズをチョウチョのはねにくっつけるのが、とてもむずかしかったです。



『楽しい休み時間』

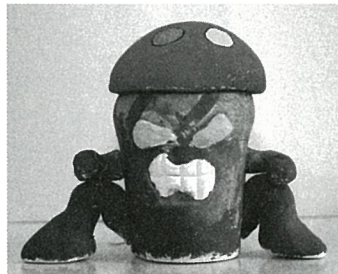


4年
青柳 花野さん

※お友達の楽しそうな顔を上手にかけるようにがんばりました。



5年
鈴木 伊織さん



『きのこマン』

※きのこマンは、カップラーメンのカップをリサイクルして作りしました。



6年
鈴木健太郎さん

※この字で、ほかが一番大変だったのが、『夏』です。が大変でした。



夏の山家

書展受賞

鈴木健太郎

ひかり俳壇



戦記碑の半島岬雁来紅
大木 素風 (二又)

葉鶏頭荒れしままなる旅籠あと
布施 和代 (二又)

葉鶏頭ゆれて夕日の無人駅
川島 孝夫 (二又)

葉鶏頭燃ゆるが如く凜として
鈴木とし子 (宝米)

雨走り暮色に艶やか葉鶏頭
川島 通則 (二又)

天心の月降りそそぐ葉鶏頭
越川せつ子 (篠本)

葉鶏頭無縁仏へ揺れており
土屋 義昭 (虫生)

短評 大谷 武彦

葉鶏頭の葉は、赤・黄・紫のまだらがある一年草で、主に鑑賞用で句会の席で冬の季節として出ることが多い。

今回の句で、特に布施さんの「旅籠あと」・川島孝夫さんの「無人駅」は、同じ情景の象限の捉え方が同じでも、明暗にわかれて甲乙付けがたく、冬の情景が滲みでている。

読者の皆様は、如何でしょうか。

評者吟

燕去る老人ホームに巢を残し